

Festina lente

Highlights

- ・この一年を振り返りました！
- ・エッセーコンテスト最優秀賞受賞！
- ・寮生、頑張ってます！
- ・受験シーズン到来！



11月学校説明会（体育館）

保護者懇談会での 学校からの説明①

保護者懇談会での 学校からの説明②

二学期を終えて

校長 柳井修

寮だより

寮監長 楠田克彦

進路指導部より進路主任後藤慎太郎 生徒表彰 APU主任 矢野裕美子

カウンセリングルーム 林 智一

進学先報告 6の4担任河野智治

生徒指導部より指導主任阿部順三 保健室より 養護教諭 野村めぐみ

お知らせとお願い

1

2

3

4

5

6

7

8

保護者懇談会での学校からの説明

11月23日(土)に保護者懇談会が行われました。体育館では9時30分より例年どおり学校から今年度の各分掌の取り組みについて説明がありました。早朝より多くの方が参加されました。

以下は説明会の内容です。

1. 校長 柳井 修

- あいさつ・笑顔一元気な学校づくり
- 岩田だけのオンリーワン

－少数精鋭教育のトップ校へ

- 生徒の学力アップ－教員の指導力アップ
- 保護者の方々は熱狂的な岩田サポーター

2. 教務より 立川英季

◆成績が下がったら、部活・習い事はやめさせたほうがいいんでしょうか？

◆塾に行かせたほうがいいんでしょうか？

部活動や習い事は、どうキレイ事を言つても、時間的・体力的に制約を受けます。

しかし、それらの活動を続けることの利点は2つあります。1つ目は「学業との両立を目指す工夫ができる」ことです。「やるべき事」と「やりたい事」をどう両立させ、それぞれについて満足できる結果や思

い出を残していくか？大学受験で成功した生徒の取り組みを見て感じたことは、
①客觀性（自分の願望と現実・結果を區別して理解することができる）

②継続性（始めたことを続ける。一旦休んで同じペースで再開できる切り替えの良さも含む）

③計画性（小さくても達成すべき目標を設定でき、その為の作業を分割して行える）の3点です。

時間を上手く使うには、「安心して忘れる」ように、中学生は学習記録帳を、高校生はスケジュール帳（500円程度のもので充分）を使って欲しいと思います。本校の教員は、学ぶ意欲を見せてくれた生徒には、たとえ授業に行ってない生徒であっても、応えたいという気持ちがあります。ぜひ、質問や相談に来て、学校を、教員を利用し尽くして下さい。これは、本校のような教員一人あたりの生徒数が少ない学校だからこそできることだと思います。

2つ目は試合や舞台、つまり「本番」の日に向けての「気持ちの作り方」を経験で

↓保護者ミニバレーボール大会



↓柳井(校長)



↓立川(教務)



↓阿部(指導)



↓後藤(進路)



↓池邊(特活)





学園だより

きることです。本番1ヶ月前、1週間前、前日と、時期によって必要な練習の段階があります。たとえ弱くても、最後まで続けたこと、大差のついた試合でも、仲間を励まし続け、戦う意志を失わなかつたこと、得点のチャンスや発表の場で、ノーミスで最後までやり遂げたこと。出来れば自信になり、たとえ出来なくても本気の勝負は必ず次の挑戦につながります。その経験は人生の多くの場面で活きますし、またそれを評価する入試制度も多く有ります。

最後に、各学年ごとの授業・クラス編成の予定をまとめてみました。

●中1・中2…中学3年間の内容を履修。均等編成のクラスで同内容の授業。

●中3…習熟度分け…英・数（+国）の授業を再編成。

※31回生からは医進のクラス分け

●高1…地歴（日史／地理）の選択。※理科は3科目とも履修。

●高2…文理分け

文系は理科（物化生）から1つ。

※公民は文理とも必修。

理系は理科から2つ（化学は必修）と地歴（日世地）から1つ

●高3…コース分け

私立文系・国公立文系・私立理系・国公立理系

3. 生徒指導部より 阿部順三

「携帯電話の利用アンケート」の回答にご協力いただき、感謝申し上げます。皆様から「中高生の利用は早すぎる」「友人間のコミュニケーションに変化が見られる」

「スマートフォンに変えてからlineやFacebookなどの使用時間が増えた」「今回、親子で携帯電話の使用について話し合うよい機会となった」等々多くのご意見をいただきました。3学期には「生徒アンケート」の実施も予定しております。

急激な情報化の進展により、簡単にインターネットに接続できる携帯電話等は、使用規範やルールが十分に確立するまえに広まつたため、犯罪の被害者や加害者になってしまつたり、特定の個人の誹謗中傷を書き込むなどのネットトラブルが発生しており、大きな社会問題になっています。本校もアンケート集計結果等を参考にし、社会における正しい判断や望ましい態度を育成できるように、指導体制を整えていきたいと思います。ご家庭におかれましても、「どのように使うか」「使用時間」などのルール作りをしていただきますようご協力をお願ひいたします。

4. 進路指導部より 後藤慎太郎

以下の3点について説明がありました。

①偏差値について

②ベネッセ冊子「合格ライン」とGTZについて

偏差値、ベネッセのGTZとはどういうものか解説しました。また、「合格ライン」を見ることによって、志望校合格までどれだけの得点、偏差値が必要かの目安がわかると言ふことを説明しました。

5. 特別活動より 池邊和則

■学校行事について■

①歓迎遠足＆避難訓練

4月10日に平和市民公園で新入生歓迎遠足が行われました。このとき津波災害における避難場所である舞鶴高校第2グラウンドとマックスバリュ桜坂店への避難経路を確認しました。

②芸術鑑賞会

4月19日には大分文化会館で芸術鑑賞会を行いました。今年度は岩崎大輔トリオ&多田誠司氏によるジャズ演奏会を鑑賞しました。

③クラスマッチ

7月9日～11日には2学年ずつでクラスマッチ（球技大会）を行いました。

④夏期訓練

7月18日～20日には夏期訓練を行いました。中1はマリンカルチャーセンター、中2は熊本県の国立阿蘇青少年交流の家、中3は同じく阿蘇でアメリカンサマーキャンプを行いました。天候にも恵まれ有意義な研修となりました。

⑤学園祭

9月14日～9月19日には本校最大のイベントである学園祭が行われました。

「彩（えがく）」というテーマのもとに今年も津村生徒会長をはじめ生徒が中心となって企画運営を行い、すばらしい学園祭となりました。詳細はDVDなどをご覧下さい。

今年は幸い天候に恵まれましたが、来年度以降、体育大会の雨天時の予備日確保の観点から日程の見直しをする可能性もありますので、保護者の皆様にはご承知おきいただきたいと思います。また、来年度の芸能祭はホールトホールで実施することが決定しています。

⑥生徒会長選挙

11月13日には生徒会長選挙が行われ、次点との得票差が4票という激戦の結果、高校1年生の草地千晃君が当選しま

した。今後は彼を中心に執行部を決定し、その後、各委員会のメンバーを決定することになります。

■部活動について■

①岩田の部活動数と加入率について

昨年度はラグビー部、今年度はソフトテニス部が廃止となり、現在岩田には、運動部が8、文化部が9の合計17の部があります。そのうち、バレーボール部は新規募集停止、美術部は休部となっています。

生徒の部活動加入状況は、のべ加入率は全校で87%となっており、かなり高い加入率となっていますが、1人で2つ、3つの部を掛け持ちしていたり、活動実績のない生徒もいたりしますので実活動者数はもう少し下がります。

本校では、施設設備不足や顧問不足、運動部の部員確保などの問題を抱えており、今後も部の精選と活動内容の見直しをしていかなければいけないと考えています。

②部活動に参加する意義について

部活動は、学校生活を楽しくしてくれるだけではなく、体力をつけたり、礼儀作法や人間関係を学んだり、責任感や忍耐力を身につける良い機会です。

ときに人間関係のトラブル、けが、先生や先輩に怒られるなど、良いことばかりではありませんが、それもまた困難にどう対処するかという本人にとって貴重な経験となります。

本校の部活動は夕方17時50分までであり、平日の活動時間は1時間にも満たない時間です。また、本校では部活は原則高校2年をもって引退となります。したがって学業に大きく支障ができるようなことはないと考えていますし、受験結果を見ても多くの部活生が進学実績を出していました。

学業不振の理由を、部活動における負担を理由にすることがありますが、すぐに部活のせいにするのではなく、部活以外の時間の使い方や勉強に取り組む姿勢を分析・検証して欲しいと思います。その上で、やはり学業に支障があるということであれば顧問やクラス担任に相談をして下さい。

部活動はこの先の人生にもたくさんの $+ \alpha$ をしてくれるものですので、保護者の皆様にはこれまでと同様にご理解、ご協力をお願いしたいと思います。





今学期を振り返って

日頃から本校の教育活動に御理解・御協力をいただき深く感謝しております。また11月の行われました保護者懇談会や保護者会バレー大会に多数のご来校・ご参加ありがとうございました。バレー大会には私も久々に参加いたしまして、保護者の皆さんと和気藹々たいへんいい汗をかくことができました。

さて早いもので今年もいよいよ押し迫って参りました。今学期の学校運営についてご報告いたします。

◆第31回学園祭「彩(えがく)~それぞれの個性(いろ)それぞれの心(おもい)~」

昨年、一昨年と台風に見舞われたいへんでしたが、今年は久々に天候の心配をしないですむ学園祭でした。学園祭には、それぞれの世代にそれぞれの学園祭があり、青春のよき思い出となっています。今も昔も岩田生がもっと輝くのが学園祭です。今年も津村佳希生徒会長を中心にまとまりのあるたいへんすばらしい学園祭でした。個人的には特に『岩田生の主張』が中学生・高校生の目線に立ったものや人権に関するものなど内容的にすばらしいものが多く感動しました。また、体育大会は大接戦の末、北軍が3連覇しました。捲土重来、南軍の皆さんには来年こそは、しばらく遠のいている勝利をぜひつかんでください。

◆そのほか

例年どおり10月は高1IWATAコースの生徒がオーストラリア修学旅行に行きました。ホームステイをしながら現地の学校へ通うこの修学旅行は9回生からもう20年近く続いています。日程的にはたいへん厳しいのですが、今年は一人でホームステイを希望する生徒も多数いて、とても充実した研修になったかと思います。

進路関係は河合塾の岡展久先生が『最新入試情報～保護者としての心構え～』という演題で講演をしていただきました。そして高校3年生は、10月にセンター試験の出願を終え、すでに指定校推薦入試、一般推薦入試、AO入試等がすでに始まっており、吉報が続々と入ってきます。多くの生徒は、10月と12月の2回の審査会の結果を踏まえ、これから私大の一般入試の出願、センター試験へと向かっていきます。ラストスパートになりますが、体調管理に留意して目標を突破して欲しいと思います。

校長 柳井 修

◆同窓会(「樟友会」)関西支部の発足

恒例の同窓会の学校周辺清掃活動には今年も多く卒業生が集まりました。本校の同窓会はたいへん活発で、ボランティア清掃の他、高校2年生の東京大学見学のお世話、大学3年生の就職相談なども行っています。そして今年は東京支部に続いて関西支部も発足し、ますます活発になっています。1回生が現在43歳、親子で岩田という生徒も年々増えています。卒業してからもこれほど母校愛を強く持つてもらえるとは毎々感謝です。たいへん心強い本校の応援団です。

◆下村博文文部科学大臣聞く

先日、下村博文文部科学大臣と成瀬理事長と私の3人で対談する機会をもつことができました。その中で大臣は日本青少年研究所による「中学生・高校生の生活と意識調査」の中で、「自分はダメな人間だと思う」という設問で「そう思う」と答えた高校生が、中国で13%、アメリカで22%なのに対して、日本では84%もいることにふれられました。大臣は、これから日本の日本を背負って立つ若者の大半が自己肯定感や自尊心、自信を失っていることを憂慮されています。その対策の一つが先日教育再生実行会議の答申で出された大学入試センター試験の改革です。東京大学と京都大学が平成28年度から推薦入試をはじめるのもその先駆けです。また、大臣は海外の教育に後れを取っているグローバルな人材の育成も早急に対応したいと意欲をみせられました。

私はこのような話を聞けば聞くほど、本校の教育方針が間違っていないものだと確信しました。本校では、『21世紀に有為な人材の育成』をめざし、たくましく人間力溢れた人材の育成に取り組んでいます。勉強はもちろん、部活動や生徒会活動、ボランティアを積極的に奨励しています。

また、APU立命館コースにおいては、グローバルな人材の育成を目指し、いち早く偏差値に捕らわれない教育の実践、すなわち語学力はもちろんディベート力、プレゼンテーション能力、論文力を重視する教育を始めました。

最後に大臣は公立に比べ、今後の教育界改革に向けて意欲的に取り組む私学に大いに期待しているとの言葉を頂きました。

◆本校の今後の課題

7月には保護者アンケート、11月には生徒の授業アンケートをとりました。この結果を受け、職員研修などで日々教師力の向上に研鑽しております。対外模試を行えば模試反省会を行い、体力テストをすれば生徒がどれだけ向上したか分析し、その対応を体育科や部活動顧問などと議論しています。繰り返しになりますが、教育に「これでよい」はないのです。

そこで生徒に関わることで現在議論していることを紹介します。一つは体育大会の時期を5月に移してはという議論です。本校の学園祭は体育大会も含め、6日間というのが開校からの伝統でした。この6日間は学校行事や対外行事の関係で現在9月中旬に開催しています。

この9月は地球温暖化の影響からか最近はとても暑い日が多く、この時期に開催する限り、どんなに熱中症の対策をとっても万全とはいえないくなっています。また、他校では不幸にも死亡事故も毎年起こっています。体育大会だけ5月に実施してはいかがなものか。最近の校長会でも体育大会の開催日程についてはよく話題となっています。

もう一つは部活動の精選であります。現在本校には文化部が9、運動部が8ありますが、男女共学になって1学年が100名程度の本校の規模では慢性的に部員不足の悩みを抱えています。部活動加入率は87%。これは進学校にしてはたいへん高い数字だと思います。したがってこれ以上の人数の増加が見込めない今、部活動の数を減らさなければならないのではないかという議論です。

これらの課題は、賛否両論様々な意見、また多方面の影響がありますので、学校としても慎重に審議し判断して参りたいと思います。

学校説明会保護者会でも申しましたが、保護者の皆さん、卒業生は熱狂的なサポーターであると思います。熱狂的なサポーターは良い結果が出れば我がことのように喜び、期待外れの結果が出れば我が子のことのように叱る。今後とも皆さんの声は熱狂的なサポーターの声として声援も罵声も真摯に受け止め学校運営に役立てたいと思います。





進路指導部より

11月29日に大学入試センターよりセンター試験志願者数(確定)の発表がありました。志願者数は560,670人(2.2%減)で、内訳は現役生428,883人(3.6%減)、既卒生などが111,914人(3.9%増)でした。

全国的な志望動向としては昨年度からの「理高文低」「資格志向」が継続しているようで、文系では法学部の人気が低くなっています。九州大・法のみ前年比129%（河合塾より）と増加していましたが、これはセンター試験が地歴2科目指定から2014年度入試より公民の選択が可能になった為と考えられ、難化することも予想されます。

また、理系人気の中で特に医・歯・薬・看護系の人気は非常に高く、本校でも受験者が多いため、今回は医・歯・薬・看護系について話をします。

2013年度センター試験は7科目900点満点で全国平均が、前年度より理系で-36点でした。この影響から特に医学部では第一段階選抜を実施する大学を敬遠する傾向になり、一昨年度入試で第一段階選抜のボーダーを大幅に上げた大分大・医・医でも昨年

進路指導主任 後藤 慎太郎

度は実施されませんでした。

また、医学部の後期では、九州大・岡山大が廃止で26校(50校中)になり、募集人員の多い山梨・信州・奈良県医などは更に志願者が増加すると見られています。私立では福岡大学の医学部でセンター方式(10名)が導入されるようになりました。センターボーダー予想得点率は88%(河合塾予想)です。また、看護学科もここ数年非常に人気が高く、全国で1,665名の定員増。九州でも帝京大学福岡看護が新たに新設されるなどしています。

受験形態もすこしづつ変わってきました。インターネット出願が話題になっている昨今ですが、東洋、武蔵野、近畿大などはインターネット出願のみになっており、紙の受験要項がない状態になっています。

高校3年生は今年中に願書を取り寄せて必ず目を通しておきましょう。また、高校1, 2年生もまだ先のように思えるかもしれませんが、自分が行きたい大学をしっかりと把握し、大学案内などを取り寄せて見るのも受験勉強の一つです。

今月の出来事

快挙！全国英語エッセイコンテスト 最優秀賞受賞！ APUコース主任 矢野 裕美子

■ 最優秀賞

岩田高等学校 APU・立命館コース
2年生 西村 ひかり

Going Green

APUコースでは、夏休み補習の授業で「関西学院大学×読売新聞×デイリー・ヨミウリ 第5回高校生英語エッセーコンテスト」へ取り組み、「考えてみよう。世界のこと、日本のこと」というテーマの下、英語エッセーを書き上げました。昨年に引き続き、本校より受賞者が出了ました。

しかも今年は一番参加者の多い一般部門(902作品)の中で、最優秀賞を5-4 西村ひかりさん（「Going Green」）が受賞。審査委員長より「内容も構成もよく、冒頭から結末まで惹きつけられました。」と評されました。是非、インターネットで西村さんのエッセイを読んでみて下さい。

<http://www.yomiuri-osaka.com/essay2013>
(高校生英語エッセコンテストHP)
<http://the-japan-news.com/news/article/0000817099> (The Japan News HP)

～受賞のコメント（西村ひかりさん）～
「ふるさとの魅力伝えたい！このような素晴らしい賞をいただき大変光栄です。以前は、大分県は田舎で何もないところだと思い都会にあこがれていました。今はそれこそが大分の魅力であると実感しています。このエッセーにより大分県の豊富な自然、人々、おもてなしの精神を多くの人に伝えたいです。これからも英語力を磨き、大好きな大分県の良さを海外にも発信していきたいです。」



↑ : 西村ひかり さん(5年4組)

The chart illustrates the significant growth in nursing student numbers across Japan. In 2013, there were 1,100 students in the Kanto region, 265 in Kyushu, 120 in Shikoku, 180 in the Tohoku region, 80 in the Chubu region, 240 in the Kanto region, 80 in Shiga Prefecture, and 160 in Hokkaido. By 2014, these figures had risen to 1,200, 270, 120, 200, 240, 265, 120, and 280 respectively.

地域	2013年度	2014年度
九州	+80名	+80名
四国	120名	120名
近畿	265名	270名
関東	1,100名	1,200名
中部	240名	240名
東北	80名	120名
北海道	160名	280名



学園だより

カウンセリングルームより

「課題」から「チャレンジ」へ
もう一昔(ひとむかし)以上も前のことになってしまいますが、米国のミシガン大学老年学クリニックに視察旅行に行ったことがあります。私にとっては初めての海外であり、視察内容はもちろんのこと、日常生活で見るもの、聞くものすべてが新鮮で、とてもすばらしい2週間となりました。

そこでたびたび耳にしたことばが今も印象に残っています。それは「チャレンジ challenge」ということばです。

日本人なら、「～が今後の課題です」とか、「目下の課題は～です」と言うところを、現地の先生がたは「～することが私たちにとってのチャレンジです」という言い方をなさっていました。ちょっとしたことですが、この違いはとても大きいと思いました。

「課題」というと、なんだかひとからやらされているとか、この状況ではやらざるをえないといった、「受け身的」、「義務的」な感じを受けますね。それに対して、チャレンジということばは、「主体的」に「選択」して、みずから進んで挑戦していく、というニュアンスがあります。

勉強にせよ、仕事にせよ、家事にせよ、子育てや介護などにせよ、受け身的な「課題」だと考えると、なんだか負担になってしまいますよね。それは、「させられている」感じがするからです。

でも、みずから主体的に「チャレンジ」するのだ、と考えるとどうでしょう。あえて自分の意思で取り組むのですから、意欲もわいてくるような気がしませんか。

これから寒くなってくると、「朝、起きたくないなあ」という日もあるかもしれません。「勉強がつらい」とか、「仕事したくないなあ」という気持ちになるときもあるでしょう。そういうとき、「チャレンジ」ということばを思い出していただけたと思います。(ただし、抑うつ状態の人は、無理してがんばらないで、しっかり休養をとってください)。

「そんなのことば遊びみたいなもんだよ」と思われるかたもあるかもしれません。しかし、「ことば」と「こころ」は密接に結びついているものです。ちょっとしたことばの使い方ひとつで、けっこう私たちのこころは変化するものです。逆に、こころが変われば、ことば使いも変化するもの

です。

そのため、「こころ」をあつかうカウンセラーにとって、「ことば」はとても大切なものです。カウンセリングという営(いとな)みは、こころを変化させる鍵(かぎ)となることばを、クライエントさん(=相談に来たかた)と一緒に探す旅のようなものだと、私は考えています。カウンセリングにおいては、それが私にとっての「チャレンジ」です。

さて。ちょっとした悩みでもかまいませんし、雑談だってかまいません。少しでもカウンセリングに興味を持たれたかたには、気軽にカウンセリングルームを利用してくださいければ、と願っています。



APU立命館コース 第4期生の進学先内定の報告 6年4組担任 河野智治

来春卒業予定のAPU・立命館コース4期生(26回生)の進学先が内定しましたのでご報告します。このコースの生徒は全員が立命館アジア太平洋大学(APU)、もしくは立命館大学に推薦入学することができます。

立命館大学進学には立命館学習到達度検証試験をクリアする必要がありますが、今年度も進学志望者全員が試験を突破し、立命館大学進学を決めました。

- APU—アジア太平洋学部 9名
　　—国際経営学部 1名
- 立命館大学—映像学部 1名
　　—法学部 1名
　　—国際関係学部 1名
　　—産業社会学部 1名

- 立命館大学—政策科学学部 1名
　　—経済学部 1名
　　—経営学部 1名

- 西南学院大学—文学部 1名



↑BKCローム記念館



↑APUキャンパス



↑衣笠キャンパス



↑びわこ草津キャンパス

12月22日(日)から1月7日(火)まで冬季休業となります。自己を見つめ直す絶好の機会です。目標を立て、その実現に向けて頑張りましょう。以下に生活心得を示しますので確認しておいて下さい。

1.家庭での生活について

- (1)1日の生活時間の計画を立てて、規則正しい生活を送りましょう。
- (2)健康管理に注意しましょう。また、虫歯や疾病などの治療を休み中に行いましょう。
- (3)積極的に読書の時間を見つけ、幅広い教養を身につけましょう。

2.学習について

- (1)2学期の学習について反省し、不得意教科については、その学習内容を十分復習して3学期に備えましょう。
- (2)各教科から出されている課題を計画的に進め、始業目に全教科提出しましょう。
- (3)1月14日(火)、15日(水)に実力考査を実施します。

3.交通安全・公共マナーについて

- (1)交通ルールを遵守し、事故に遭わない・起こさないようにしましょう。もし、事故に遭ったり・起こしたりした場合はそれが小さな事故でも必ず警察に通報すること。相手の名前や連絡先、車の場合はナンバーと車種・色を確認すること。あわせて学校・担任にも連絡をして下さい。
- (2)自転車の道路右側の路側帯通行、二人乗り、並進、傘差し運転、信号無視等絶対にしてはいけません。また、自転車運転中に携帯電話の使用や画面の注視は禁止。大音量で音楽を聴くことやヘッドホンなどを使用しながらの運転

も禁止です。違反者には5万円以下の罰金が科せられます。

- (3)自転車は防犯登録をし、必ず施錠(ロック)するようにしましょう。
- (4)自転車は所定の場所に駐輪し、決して点字ブロックや歩行者の邪魔になるような場所には留めないようにしましょう。また、トキハ前道路(中央通り)の歩道は駐輪禁止となっています。
- (5)JR・バスの中、公共の施設ではマナーや施設の規則を守り、他の人に迷惑にならないようにしましょう。特に、JR・バスでは高齢者や身体の不自由な人には積極的に席を譲りましょう。
- (6)運転免許の取得は禁止です。また、無免許運転をしてはいけません。

4.校外生活について

- (1)外出について
 - ・外出の際は必ず家人に行き先、用件、帰宅時間を知らせておくこと。
 - ・外出の際の服装は制服または清楚なものとし、必ず身分証明書を携帯すること。
 - ・夜間外出については、中学生は19時まで、高校生は21時までとする。なお、女子については、日没後の外出を慎むこと。
 - ・深夜(午後11時～翌日の午前4時)の青少年の単独、もしくは集団での徘徊は「青少年のための環境浄化に関する条例」で補導対象となります。保護者同伴であっても許可されません。
 - ・次にあげる場所は生活指導上好ましくないので保護者同伴でない限り立入を禁止します。
喫茶店・カラオケボックス、インターネットカフェ(飲酒・喫煙を伴う恐れるある場所)・ゲームセンター・ゲームコ

ーナー(高額の金銭負担につながる遊技場)などまた、日没後、公園、寺社やその境内、墓地には立入禁止です。

- (2)部活動・練習試合等・自主登校について
 - ・普段の登校と同様、制服、体操服、部でそろえたもので登校し、貴重品に関しては必ず、部の顧問、担任に預けること。
 - ・自転車も許可されている生徒のみで、携帯電話は持ち込み禁止(許可者でも校内での使用は禁止)。他校への練習試合などでも同様です。

(3)旅行・登山について

旅行や登山などを行うときは、必ず保護者の同意を得て、事故が無いようにつとめましょう。なお、冬山登山は危険ですので控えること。

(4)補導を受けたとき

万一、警察官・補導員より補導を受けた場合は、身分証明書を提示し素直な態度をとること。

(5)アルバイトは禁止です。

(6)飲酒・喫煙・窃盗・万引・薬物乱用などの反社会的行動はしてはいけません。

5.インターネットなどについて

(1)最近はインターネットでの出会い系サイトなどの有害情報によるトラブルや犯罪にあう被害が急増しています。パソコンや携帯電話などでそのようなサイトの利用を禁止します。また、保護者の方は必ずフィルタリングをかけて下さい。また、かけたフィルタリングをはずすことがないようにお願いします。(詳しくは携帯電話各社にお問い合わせ下さい。)

(2)インターネット上の掲示板・ブログ・プロフなどに他人に対して誹謗・中傷を決して書き込んではいけません。

ほけんしつから

養護教諭 野村めぐみ



～27回生WYSHプロジェクト～

12月19日(木)・12月20日(金)
に27回生対象のWYSH授業を実施します。お子様の様子・授業後感想などは、来年の1月号にてお伝え致します。



寒い日が続いている、風邪症状や冷えからくる腹痛などの症状で来室するお子様が目立ちます。衣服の調整、手洗い・うがい、マスクの着用などで予防を心がけてほしいと思います。

また、睡眠不足による頭痛で来室する6年生もちらほらと・・・

6年生の皆さん、センター試験まであと少し。体調に気をつけて頑張って下さい！！



今年も残すところあとわずか。一年たつのは早いですね。
よい年をお迎えください。来年もよろしくお願ひします。
～岩田学園職員一同

受験シーズン到来！岩田中高願書受付始まる。

同窓会(樟友会)総会のお知らせ



年々盛大になってまいりました樟友会総会が今年も例年どおり12月30日に行われます。お知り合いの卒業生がいましたら、ご連絡をお願いします。(河野)

☆日時：12月30日(月)
受付開始16:00～
総会開始16:30～
懇談会 18:00～
終了 19:45
☆会場：大分レンブラントホテル
☆会費：5,000円(1～14回生)
3,000円(15～21回生)
2,000円(22～25回生、現・旧職員)

大学入試は指定校や一般推薦の入試がほとんど終わり、志望校合格の報告が続々と届いています。IWATAコースの生徒ははいよいよ大学入試センター試験に向かって最後の追い込みとなります。また、APU立命館コースの生徒は、全員の進学先が内定しました(詳細は5Pへ掲載)。

本校の来年度の募集も始まり、初日12月9日(月)にはたくさんの方々が志願票を持って来校しました。中学、高校入試とも昨年度と同様の形態で実施します。

中学入試は1月4日に学科試験(専願・一般共通)を実施し、5日に面接(専願)を行います。受験生がいるご家庭に吉報が届くことを心からお祈り申し上げます。今後の日程は次の通りです。

■岩田中学の入試日程

12月16日(月)専願・一般入試願書締切り
1月4日(土)専願・一般入試(筆記試験)
5日(日)専願入試(面接)

6日(月)専願・一般入試 合格発表

17日(金)入学手続き締切り

25日(土)入学者登校日

■岩田高校の入試日程

1月17日(金)推薦入試願書締切り
1月21日(火)推薦入試および合格発表
25日(土)一般[前期]入試願書締切り
29日(水)推薦入試 入学手続き締切り
2月2日(日)一般[前期]入試及び合格発表
8日(土)一般[前期]入試手続き締切り
推薦・前期の入学者登校日
3月20日(木)一般[後期]入試願書締切り
21日(金)一般[後期]入試及び合格発表
後期の入試手続き締切り
後期の入学者登校日
入学式は4月5日(土)、校外オリエンテーションは4月8、9日の予定です。

教員アンケート集計について～詳細は1月号で掲載～

例年、本校では生徒が先生を評価する授業アンケートを行っています。生徒には授業を受けている先生一人一人に対して、8項目を5段階で評価してもらいます。11月中をめどにアンケートを実施し、現在は集計作業に入っています。先生方には12月28日(土)の研修で、結果を報告し、今後の指導に活用していきます。

学年・クラス・男女別の個人表は、各教員へ直接配布し、学年や教科の平均などの

表は全員へ配信する流れです。個人表は684枚、全体表は200枚になります。

この結果を真摯に受け止め、授業力を向上させていく材料と捉え、全職員で分析・反省する研修にする所存です。

来年度に行う「保護者アンケート」でも積極的なご意見・ご感想をお願いします。とにかく「やる気が出る」「わかりやすい」授業が展開されれば、飛躍的な成績伸長を実現できます。

<http://iwata.ed.jp/>

ホームページやブログでCheck!

能力の差は小さいが
努力の差は大きい

脚力尽くる時、山更に好し。
輝ける未来へ、全力でサポートします！



December 2013 edition

大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp



21世紀の有為な人材を育成する
岩田中学校・高等学校